

北海道農政部農村振興局農村設計課主催

## 道東地域 教育旅行受入推進セミナー

### 地域ぐるみによる教育旅行受入事例 ～農業・農村×施設見学・マチ歩き・地元食提供等～

2023.11.22

芽室町中央公民館

有限会社アグリテック  
代表取締役社長 中田浩康

Copyright © Agri-tech Co.,Ltd All Rights Reserved

有限会社 アグリテック

## プロフィール



(略歴)

中田浩康(なかだひろやす)

1975年生まれ 栃木県小山市出身 東京農業大学生物産業学部生物生産学科卒

・1997年に農業・農村関係の出版社である農文協((社)農山漁村文化協会)に勤務。在職中に、営業・取材等で全国幾多の農山漁村をまわり、地元農家をはじめそこで生活する多くの人々に触れるうちにそれぞれの地域ごとに持つ地域資源の多様性について感銘を受ける。

・2001年に出版社を退職しフリーの「農村ライター」として北海道を拠点に活動。

・2003年に同社の設立とともに入社。地域資源を活用した体験と観光を結びつけた受地主導型「観光まちづくり」ビジネスを展開。とくにグリーンツーリズムを中心に都市と農村の交流活動の企画を担当し、教育旅行での農家民泊体験、農業体験の受け入れをはじめ、各種体験プログラムの企画、開発をおこなう。

・また、地域特有の体験観光プログラムの企画開発をはじめ、観光客、団体、企業など対象に応じた体験ツアーや着地観光を推進。

・そのほか、地元学を通じた「観光まちづくり」として、各自治体や団体と連携し交流人口増加からの地域再生プロジェクトやまちづくり事業、観光人材育成等コンサルをおこなう。

・地域交流ビジネスとして独自の「6次観光化」を提唱。

・2012年より現職。

・2019年よりアクティビティ提供専門店「HAC(Higashikawa Activity Center)」開設

・講演、執筆活動多数

有限会社アグリテック 代表取締役社長  
体験型観光プランニングコーディネーター

- ・地域力創造アドバイザー(総務省)
- ・地域再生マネージャー(ふるさと財団)
- ・(一社)ひがしかわ観光協会理事
- ・講演家
- ・農村ライター/地域活動ライター
- ・ギタリスト
- ・ヨメに弱い子育て真っ最中の2児の父



Facebookでつながりましょう！

### ■主な講演実績

- (主なテーマ：体験観光・観光まちづくり・地域観光・交流等)
- ・農水省、観光庁、観光関連機関、観光団体
  - ・北海道(本庁・各振興局、農業改良普及センター ほか)
  - ・各自治体、各グリーンツーリズム組織関連団体
  - ・各JA、JA青年部、JA女性部(農村体験、民泊関連)
  - ・商工会研修会(まちづくり、地方創生)
  - ・まちづくり団体、自治会など ほか多数

### ■主な執筆実績

- ・月刊北海道経済コラム連載
- ・広報ひがしかわ「ひがしかわ的観光イズム」:コラム連載
- ・「農業体験受入Q&A集」(北海道協同組合通信社刊・監修共著)
- ・「月刊ニューカントリー」短期連載・寄稿
- ・「月刊教育旅行」(公益財団法人日本修学旅行協会発行)
- ・「月刊現代農業」(農文協・北海道農業農村話題関連記事寄稿)
- ・「月刊AFCフォーラム」(「地域再生への助走」寄稿) ほか多数

## 本日のお話の内容(予定)

1. 会社概要(アグリテックってどんな会社)
2. 教育旅行の動向とアグリテックの農村体験の取組み
3. 地域資源・観光資源を活用した地域ぐるみで受入れについて
4. 受入を推進していくために
5. 学校現場からの期待

## アグリテックのコンセプト



体験型観光／着地型観光／グリーンツーリズム／都市と農村の交流活動の提案

わたしたちは地域の宝・地域資源・観光資源を活用した地域密着型の交流人口増加による地域活性化を図る観光まちづくりプロダクションです。

- わたしたちの最高のおもてなしは今ここにあるものを提供すること
- 旅行スタイルが変わってもツーリズムの基本は人と人との交流を信念に
- 「旅」とは「他火」。わたしたちは人と人との縁づくりを演出します

# アグリテックの4つの事業

アグリテックは地域資源を活用し体験型観光を通し交流人口増加で地域活性化のお手伝いをする観光コーディネートビジネスを展開しています。

## 01 観光サービス事業

- 1) 体験プログラムの企画開発
- 2) ツアー/ワークショップ/イベント企画
- 3) メディア制作(写真・動画・ドローン・デザイン)
- 4) HAC(Higashikawa Activity Center)の運営  
アクティビティの提供・レンタルサービス・ワークショップ・物販



## 02 教育旅行事業

- 1) 農業体験・農家民泊体験
- 2) 体験学習・探求学習
- 3) 人材育成・教材づくり(学習教材等)
- 4) 企業研修・団体旅行等の受入れ



## 03 まちづくり事業

- 1) 観光まちづくりコンサル・アドバイザー
- 2) 観光ガイド・コーディネーター育成
- 3) セミナー企画・移住定住・ワーケーション
- 4) サステナブルブランディング、SDGs



## 04 EV事業

- 1) レンタル・リース
- 2) 正規販売代理店
- 3) 観光活用(EVツアー等)
- 4) まちづくり(二次交通・グリースローモビリティ)



### <事業基盤としての地域資源掘り起こしと活用>

地元のみなさんと「地元学」を通して、足元にある当たり前の凄さを再発見。  
地域の宝、観光資源、地域資源を発掘し、それらをもとに観光コンテンツ化を図ります。

Copyright ©Agri-tech Co.,Ltd All Rights Reserved

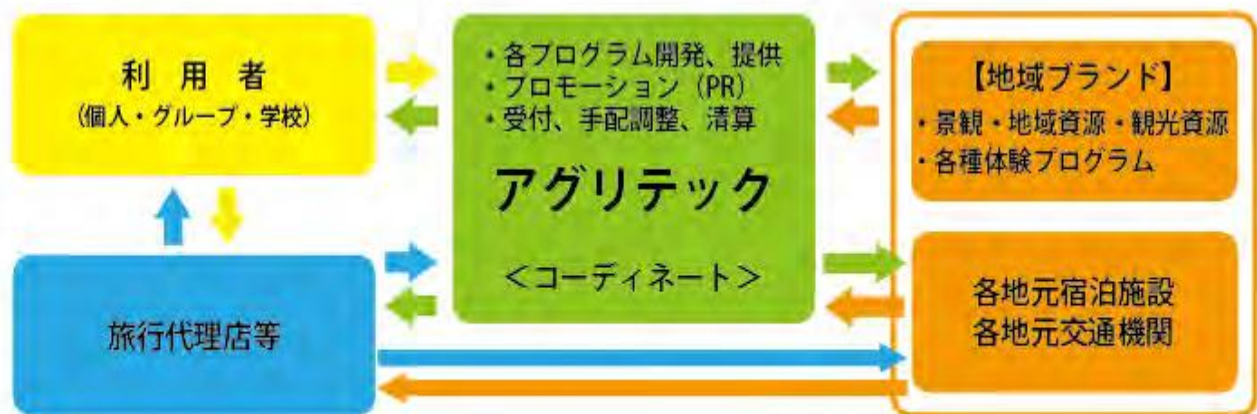
株式会社 アグリテック

# 観光におけるアグリテックの役割

アグリテックは観光客や利用者と地域をつなげる観光コーディネーターです

受地主導による着地型観光企画会社として、体験プログラムと利用者とのマッチングを行なう独自コーディネートノウハウを整備！

現地を知り尽くしたスタッフがコーディネーターとなって利用者に合わせた体験プログラムのマッチングを行なっています。累積させたコーディネートノウハウを活用し魅力的な観光資源とをマッチングさせて観光・交流人口増加を図っています。



Copyright ©Agri-tech Co.,Ltd All Rights Reserved

株式会社 アグリテック



# そもそも修学旅行とは

- 1886年(明治19年)に東京師範学校が国の軍事教育の一環で11日間の「長途遠足」が始まりといわれ、長く続く世界に誇れる日本独自の教育文化
- 1988年(明治21年)に旧文部省に「修学旅行」の項目が設けられる
- 1958年(昭和33年)に「学習指導要領」に学校行事等が位置付けられ、「学校が計画して実施する教育活動」となった。
- 友人との集団生活、一生色あせない生徒同士の思い出づくり
- 社会性、自主性、主体性など多くを学べる教育的効果が高い行事

## <近年の修学旅行の変化と傾向>

- 平成～令和の教育改革
  - 2002年 新学習指導要領(「生きる力をはぐくむ教育」、総合的な学習の時間の設置)
  - 2005年 食育基本法の制定(知育・徳育・体育だけでは日本の教育がもたなくなってきた?)
  - 2017年 学習指導要領の改訂(社会に開かれた教育過程、探求学習、持続可能な社会の担い手等)
- 航空機利用の解禁により、より遠隔地への志向
- 体験型に変わってきた
  - ・総合的な学習から探求学習へ変わり、修学旅行も物見遊山的な観光や現地での交流や体験だけでなく、自分事に置き換えられる課題解決型を主体とした学習旅行へ
  - ・平和学習、歴史学習、国際交流、交流活動、防災、民族共生等、各学校で独自のテーマをつくり、そのテーマに沿った修学旅行を実施
  - ・コロナ禍におけるオンライン普及による、事前学習や事後学習を現地とつなぐ

これらの傾向から、北海道で農業体験を修学旅行に取り入れる理由として、自然に触れる、地域産業や地域の文化を知る、地元の人との交流など、学校現場では修学旅行の目的のひとつとしてかなりのウェイトを占めている。

# 農業体験(農村体験)について

## [学校が望む農業体験の傾向]

- ・班単位での行動の重視
- ・総合的な探求学習の時間や教科単元との兼ね合い
- ・学習したことを発表し、課題解決をする力養う

↓

- ①集団で1つの農場で実施するよりも、小人数のグループ単位での作業
- ②地元の人との交流による人と人との信頼関係づくり(特に民泊を希望)
- ③小人数でおこなうことで、地域の自然や文化、風習などを深く知る

## [農家にとっては]

- ①小人数なので受入しやすい(農作業道具の宿泊部屋の確保、作業の指導などが比較的しやすい)
- ②親戚の子どもが遊びにきた感覚で交流が進みやすい
- ③ケガの回避など安全対策がとりやすい
- ④地域外の子もたちが自分の仕事を体験してもらうことで、仕事への誇りや地域のPR
- ⑤受入を継続することによる所得向上



# アグリテックでの農業体験の受け入れのコンセプト

近年体験型に変わりつつある学校教育旅行(修学旅行や研修旅行など)において、団体旅行に対応できる体験プログラムの提供をおこなっています。とりわけ農村体験の受け入れは2005年(H17年)に修学旅行での農業体験の受け入れを始め、旭川周辺および道北エリアを中心に、年間10数校1500人あまりの受け入れをおこなっています

※農村体験以外のプログラムを含めると年間20校3000名ほど。



- 都市と農村の交流で地域が元気に
- 今ここにあるもので・・・。
- 農の持つ「ほんもの体験」という教育力
- 次世代につなげるメッセージを残す
- 食卓と畑をつなげる現場を知ってもらう
- 持続して農業のできる地域づくりの一助に

Copyright © Agri-tech Co.,Ltd All Rights Reserved

アグリテック

# 農村体験プログラム(生活体験タイプ)の受け入れの形態

○受入人数：少人数分班方式(※1農家あたり3～4名程度の少人数の受入方法) ←

○受入パターン：日帰り型、滞在型など修学旅行の旅程に合った内容で組まれることが多い。 ←

受入パターン ←	体験内容 ←
半日型日帰り体験 ← (2～3時間程度) ←	1農家あたり3～4名または最大10名程度の少人数グループ単位での受入。農作業だけでなく、そば打ちや、わら草履づくりなど、農村工芸や趣味などを活かした短時間メニューも可能。 ←
1日型日帰り体験 ←	1農家あたり3～4名程度の受け入れ。植付け作業や、収穫から出荷までの流れなど、農家の1日の作業の流れをゆっくり指導することができる。生産現場を知ってもらえる。 ←
ファームステイ型 ←	1農家あたり3～4名の受け入れ。寝食をともにしながら、農業の1日の仕事の流れや、農村での生活リズムなど、また家族団欒でのコミュニケーションを通し、より深い交流が図れる。 ←

近年ほとんどがファームステイの問い合わせ

Copyright © Agri-tech Co.,Ltd All Rights Reserved

アグリテック





アグリテックの担当者が先進事例を説明した

## 和寒町農産

### 中高生の修学旅行農業体験受け入れで説明会

### ネットワーキング協設立へ

【和寒町】道内の中高生修学旅行の受け入れを促進し、農業体験の機会を増やすことを目的に、和寒町農産が「ネットワーキング協会」の設立を説明した。この日の説明会には、町内の農業者約20人が参加し、町内の農業と修学旅行の受け入れの現状や、ネットワーキング協会の役割について説明を受けた。協会の設立は、農業者間の連携を促進し、修学旅行の受け入れを円滑にするためとされている。



【和寒町】和寒町農産が主催する「ネットワーキング協会」の設立説明会が、和寒町農産の会議室で開かれた。説明会には、町内の農業者約20人が参加し、町内の農業と修学旅行の受け入れの現状や、ネットワーキング協会の役割について説明を受けた。協会の設立は、農業者間の連携を促進し、修学旅行の受け入れを円滑にするためとされている。

### グリーンツーリズム推進研究会が発足

### 寄 修学旅行生受け入れ

### 名 5、6月に現地調査実施

【和寒町】和寒町農産が主催する「グリーンツーリズム推進研究会」が発足した。この日の研究会では、町内の農業と修学旅行の受け入れの現状や、グリーンツーリズムの推進について説明を受けた。研究会の設立は、町内の農業と修学旅行の受け入れを促進し、グリーンツーリズムの推進を図るためとされている。

**北都新聞**

発行所 北都新聞社  
 〒990-0001 秋田県秋田市大森町1-1-1  
 〒990-0002 秋田県秋田市大森町1-1-1  
 〒990-0003 秋田県秋田市大森町1-1-1  
 〒990-0004 秋田県秋田市大森町1-1-1  
 〒990-0005 秋田県秋田市大森町1-1-1

### 管内で修学旅行や宿泊研修

### 中高生の農業体験倍増

【和寒町】和寒町農産が主催する「ネットワーキング協会」の設立説明会が、和寒町農産の会議室で開かれた。説明会には、町内の農業者約20人が参加し、町内の農業と修学旅行の受け入れの現状や、ネットワーキング協会の役割について説明を受けた。協会の設立は、農業者間の連携を促進し、修学旅行の受け入れを円滑にするためとされている。

### 農家民泊開業へ一歩

### 農富 随農家らが研修会

【和寒町】和寒町農産が主催する「農家民泊開業研修会」が開かれた。この日の研修会では、町内の農業者約20人が参加し、農家民泊の開業について説明を受けた。研修会の開催は、農家民泊の開業を促進し、農業者の収入を増やすためとされている。

### 農業民泊開業へ一歩

### 農富 随農家らが研修会

【和寒町】和寒町農産が主催する「農家民泊開業研修会」が開かれた。この日の研修会では、町内の農業者約20人が参加し、農家民泊の開業について説明を受けた。研修会の開催は、農家民泊の開業を促進し、農業者の収入を増やすためとされている。

### 農業民泊開業へ一歩

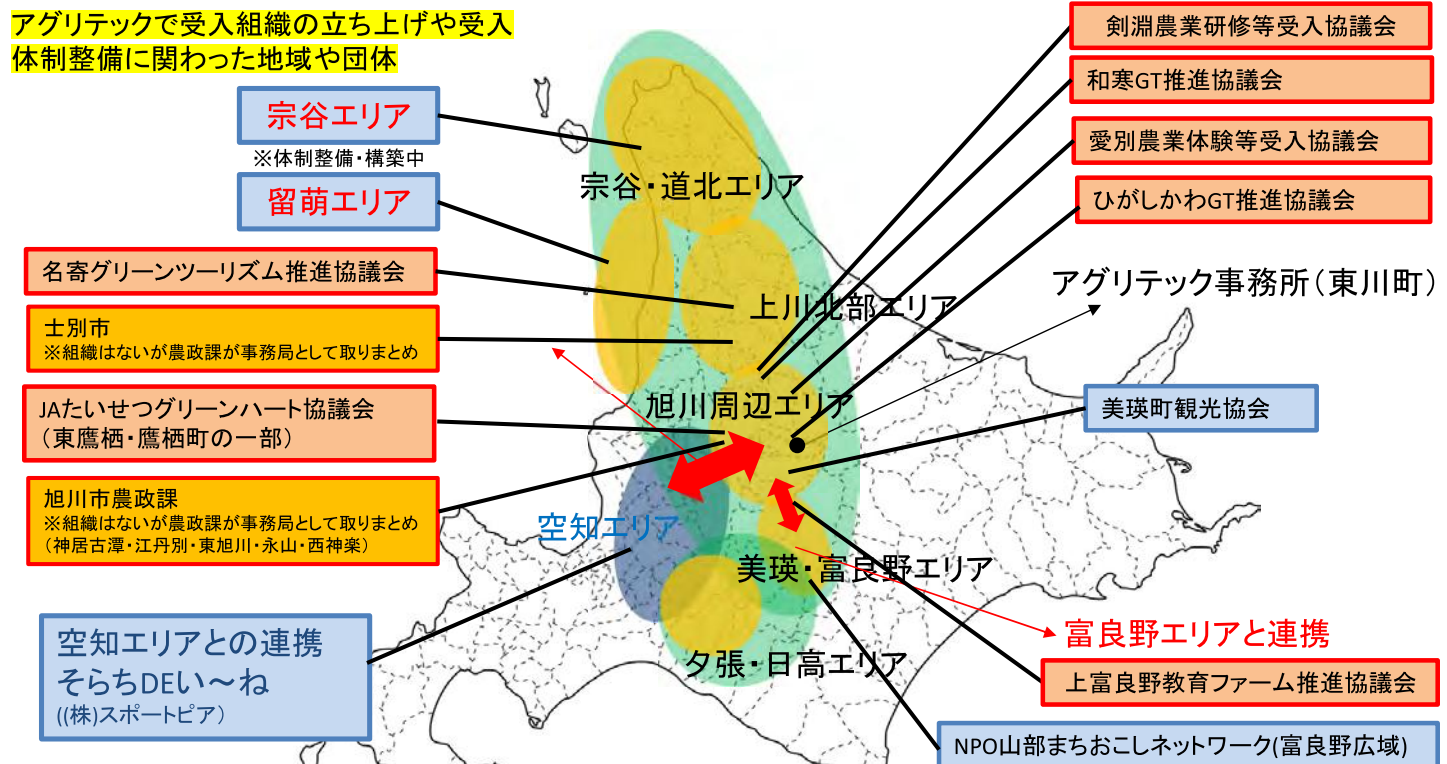
### 農富 随農家らが研修会

【和寒町】和寒町農産が主催する「農家民泊開業研修会」が開かれた。この日の研修会では、町内の農業者約20人が参加し、農家民泊の開業について説明を受けた。研修会の開催は、農家民泊の開業を促進し、農業者の収入を増やすためとされている。

## アグリテックでの教育旅行コーディネートエリア

上川・宗谷・道北エリア(一部留萌含む)を中心に5ブロックのエリア、および空知地区と連携しながら、協議会設立や体制整備をおこないながら、受け入れの調整をしています。

アグリテックで受入組織の立ち上げや受入体制整備に関わった地域や団体



10団体・4地域・ほか有志農家さん含め、日帰り体験で約400戸ファームステイで約150戸の農家さんの協力があります。

# 教育旅行の受け入れに無縁だった宗谷・道北地域に誘致が実現

修学旅行の場合農業体験だけではないので、前後のバスの行程により受入先の候補が限定されてしまう。

上川・道北・留萌地域は縦に長い  
ため、とくに旭川より北部エリアは大人  
数宿泊できるホテルが少ないこともあ  
り、修学旅行には入れづらいという。

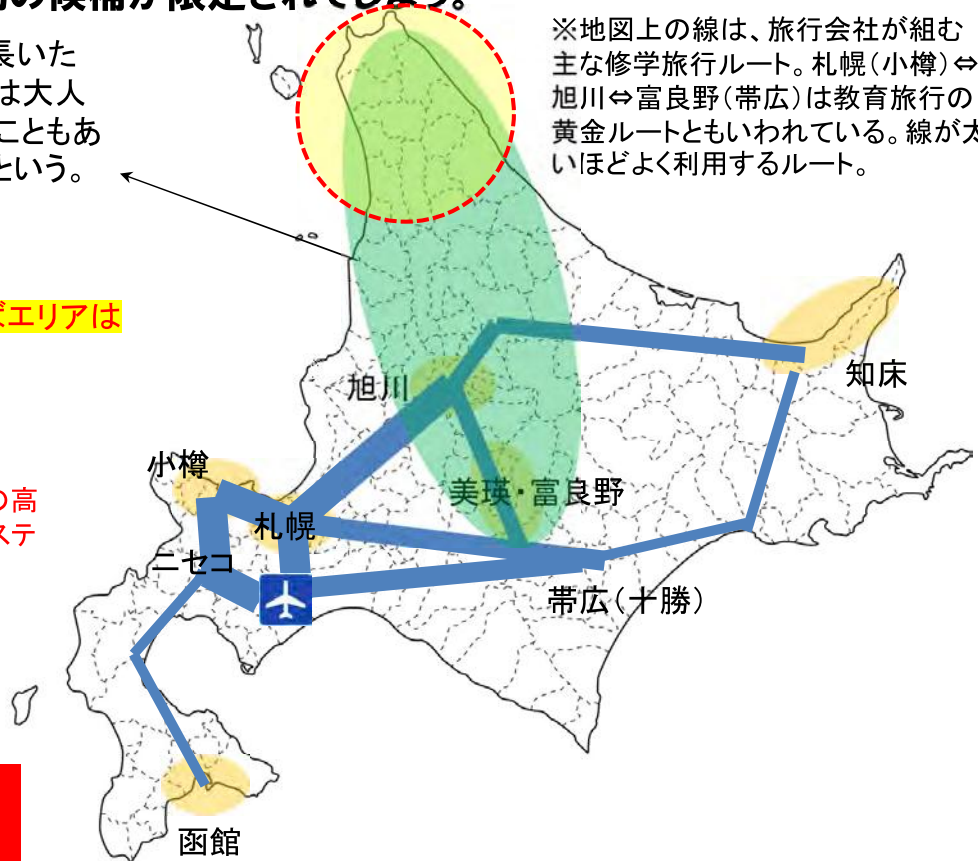
※地図上の線は、旅行会社が組む  
主な修学旅行ルート。札幌(小樽)⇔  
旭川⇔富良野(帯広)は教育旅行の  
黄金ルートともいわれている。線が太  
いほどよく利用するルート。

一方で、農家民泊ができればエリアは  
問わないという学校もある。

2017年12月に宗谷地区で静岡の高  
校生修学旅行100名のファームステ  
イ体験が実現！（継続中）

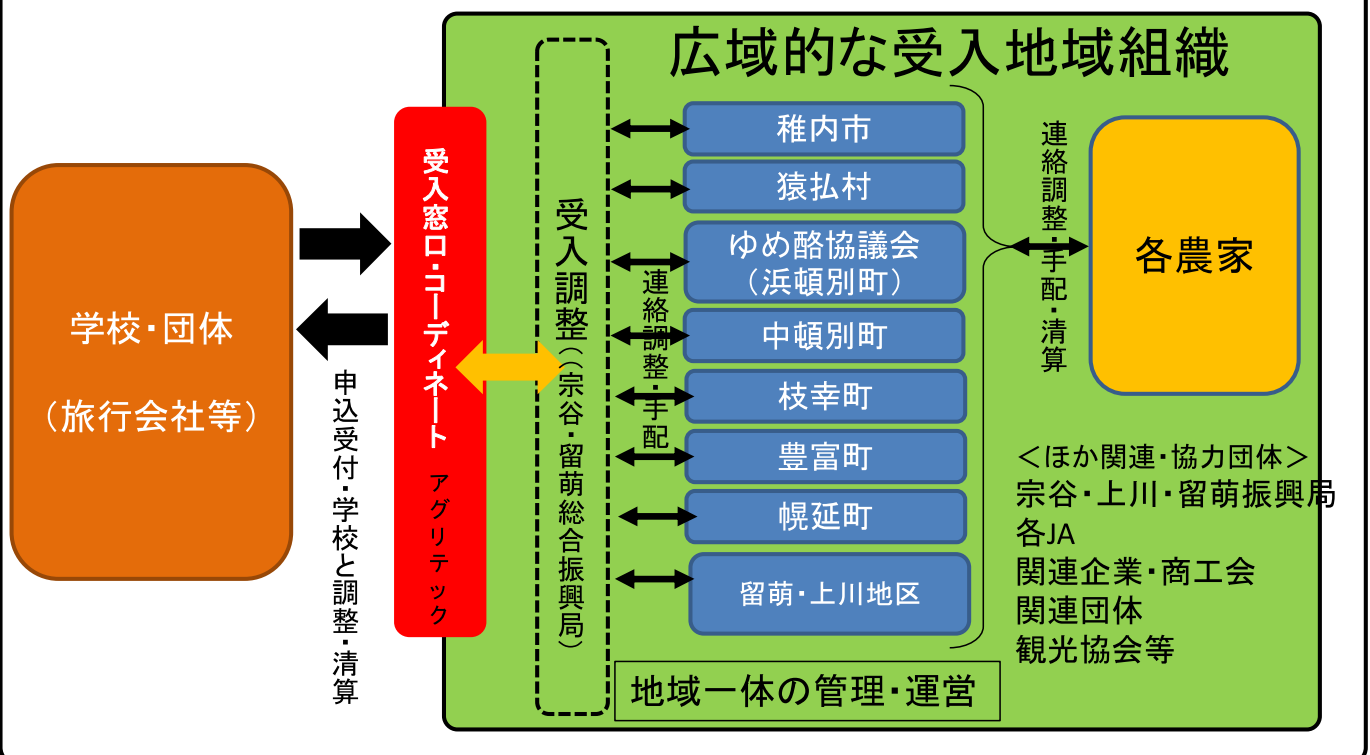


今年も12月4日～2泊3日で  
81名の生徒を4年ぶりの受  
入れに向けて調整中




## 広域連携による受け入れ

教育旅行の受け入れを円滑に進めていくため各市町村単位での受入組織・受け入れ担当者等と調整をおこないながら、受け入れをおこないます。





## 2. 地域ぐるみの受入れについて



～出会い・発見・感動・探求・SDGs～

### 教育旅行・研修旅行 プログラムのご案内

教育旅行の学習プログラムをトータルコーディネート

**有限会社 アグリテック**  
—教育研修旅行企画係—

〒071-1425 北海道上川郡東川町西町2丁目2-17  
TEL: 0166-82-0800 FAX: 0166-82-3040 E-mail: info@agtec.co.jp

### なぜ体験型なのか？

2002年に総合的な学習の時間が設けられ、その中で「生きる力を育む」という目標の實現に向けて、体験学習が重視されています。一方で社会は「ホントウの豊かさは何か」を問われています。「人間が人間らしく生きる」という中で、「こころの豊かさ」が大切だと考えます。環境問題や、食の問題、人間関係の複雑化などの社会問題も多く見え、持続可能な社会としてSDGsといった国際目標も掲げられています。もう一度「人間と人間」上の隔り「自然と人間」との隔りを見直さなければならぬ時期かもしれない。その中で、人間が人間らしく生きていくために5感をフルに使って、ホントの意味での「生きる力」が学ばれています。農山漁村や地域のもつ教育力を最大限に活かしたプログラムの構築をしていければと考えています。

社会の中の様々な不思議や課題を「**自分ごと**」におきかえ課題解決に向けて考える力を養う学習プログラムを提供



課題解決力を育成

自分を取り巻く様々な社会環境の中で、この豊かな北海道の北の大地の自然環境や地方創生の現場から、社会課題に対する理解を深めながら「ここだけでしかできない」能動的なプログラムにより課題発見力、思考力、行動力を育成します。



人間力、生きる力の向上

各プログラムでの体験活動やアクティビティによるフィールドワークやグループワーク、チームビルディングなどにより、社会（インストラクターやガイド、地域の人々）と自分との関わりのつながり、人間力や生きる力を学びます。



創造性や表現力を高める

事前学習や実際に体験し、出会いや発見、文化や地域との交流を通して学習（インプット）したことを掛けがえのない「思い出」とともに、事後学習（アウトプット）することで社会の一員として自ら考え表現する力を身に付けます。

Copyright © Agri-tech Co.,Ltd All Rights Reserved

有限会社 **アグリテック**

## 教育旅行でのニーズから見る地域ぐるみのコンテンツ開発

### 自分探求体験「SDGs x 農・食」

生命を生み出す産業としての「農業」…、農業は自然と密着し同時に生産物を生み、個性豊かな自分の暮らしや地域の生活をつづけている唯一の産業です。また農業は「自然」をフルに活かして自然や動植物に触れ、「生きていく」ということがどこまで学べることがあります。「食べる」という人間の大切な営みから、いかに命を繋いでいくかを学びます。自然の「食」が、どのような場所、どのような人、どのように自然との結び、自分とどうつながっているかを学びます。

関連するSDGs



#### 【プログラムの流れ（半日体験）】

事前学習、事後学習（振り返り）を経て学びの深め直し。当日は、体験旅行が中心となり、生命を生み出す現場で農業者やその環境（農村地域の風景など）のなかで、生きていくための実践的な学びを行います。一歩農業体験が実践的かつ体験型な学び（高カブ）です。




「**農家完結型**」だけではなく



「**地域連携型**」で農業・農村・食・自然・環境・地域産業を学ぶ

●キーとなるのが**現地ファシリテーター**—農業体験や農協施設など体験内容や行く場所などが異なるため目的が散漫になってしまうことを避けながらストーリーをもたせてコーディネートガイドをおこなう。

ファシリテーターの想定として、JA職員や地域おこし協力隊など。また団体職員OBや有志らなどに人材育成研修などを実施中。

Copyright © Agri-tech Co.,Ltd All Rights Reserved

有限会社 **アグリテック**







# 受入れ事例①

## ご旅程【トナム・旭川・札幌】(東川町SDGsプログラム)

高等学校 御中

令和 4年 4月 7日 改訂

旅行日 : 2022年 6月14日(火)~6月17日(金)

旅行先 : 北海道 方面

人員 : 生徒178名、先生15名、写真1名 合計194名(予定)

支店長 : 今 智 英  
 総合旅行業務取扱管理者 : 今 智 英  
 担当者 : 足 立 竜 也

日次	月日・曜日	☆往復共に:荷物室内預け	行	種	宿泊・備考		
①	6/14 (火)	学校 8:30	貨切バス 伊丹空港 → 新千歳空港 9:50 11:20	JAL2005便 13:05 14:10	トナム 15:45 16:10	到着後、ホテルにてアイヌ文化学習 17:00頃	【トナム】 星野リゾート・トナム
②	6/15 (水)	ホテル 8:30	ラフティング体験・昼食 9:00~11:30	道の駅「南ふらの」(休憩) 12:30 12:45	旭山動物園(入園) 15:20 17:00	旭川市内(泊) 17:20頃	【旭川】 アートホテル旭川
③	6/16 (木)	(希望別研修) ホテル 8:30	東川町・SDGsプログラム(数種類のプログラムの中から選択し体験) 9:00	砂川ハイウェイオアシス(休憩) 16:20 16:40	札幌市内草苅見学(旧道庁・時計台) 18:40頃	札幌市内(泊)	【札幌】 ホテルエミシア札幌
④	6/17 (金)	貨切バス 8:30	小樽市内(個別自主研修) 9:30	新千歳空港 → 伊丹空港 14:30 16:20 新千歳空港 → 神戸空港 14:30 17:40	JAL2010便 18:15 18:55 SKY176便 19:40 20:20	姫路駅 学校 20:25 21:00頃 姫路駅 学校 21:35 22:05頃	
記入例	航空機 → 徒歩 …… バス = JR = 船 ~ ロ-アウェイ(ケーブル含む) ~ 私鉄(モラル含む) +++++	(昼食) 昼食 (貸切) 貸切 ☆その他特記事項	体験学習・見学活動備考	第1プラン	第2プラン		

Copyright © Agri-tech Co.,Ltd All Rights Reserved

有限会社 アグリテック

# 受入れ事例①

2022/6/16(木) 高等学校修学旅行 プログラム概要

バス	プログラム	人数	概要	AM(9:00~12:00)	お昼	弁当数	午後(13:00~15:00)
1号車	①農村アウトドアクッキング	46名 ・生徒44名 ・引率者2名	農業の生産現場を訪れ生産物についての学びと農家さんの食や農業に対する思いを感じながら、栽培された生産物等を使ったアウトドアクッキング。	いくつかの農家さんめぐりながら農家さんと交流や収穫体験など。	BBQ (コンロで炭に火をおこしたり、収穫した野菜をカットしてジンギスカンを中心にしたBBQやアウトドア料理の体験)		動きまわったり、気分を分かつ
2号車	②農村生活体験プログラム	14名 ・生徒13名 ・引率者1名	その日そのときおこなっている農家さんの作業をいっしょにお手伝いすることにより、農業や食についての理解や食を産み出す農業としての仕事を学ぶ。	普段おこなっている農作業を一緒にお手伝いしながら農家さんとの交流。	農家さんのところでのおにぎり弁当	17名分	普段おこなっている農作業を一緒にお手伝いしながら農家さんとの交流。
3号車	③東川マチ歩きBINGO	11名 ・生徒10名 ・引率者1名	北海道の星張「大雪山」の麓にある東川町は自然豊かな農業と家具の町。近年は移住者が増え人口が増え、町の取り組みなどをマチ歩きしながら学ぶ。	東川町のみどころや観光資源などをガイドと一緒により学ぶ。	フッカ	12	東川町市街地を町の取り組みなどを
	④留学生との交流	18名 ・生徒17名 ・引率者1名	地元の学生と交流を通して様々な価値観を学ぶ。東川町の日本で唯一の町立日本語学校に遇う外国人留学生や旭川大学で食を学ぶ大学生らと国際交流や食文化交流。	多くの留学生が通う東川町立日本語学校で授業の見学や学生との交流。	フッカ(テイクアウト弁当)	22	旭川短期大学にて食育等をおこなっているゼミ生との交流。授業見学や体験。
4・5号車	⑤旭川スイーツめぐり&マチナカツアー	81名 ・生徒77名 ・引率者4名	北海道で札幌に次いで2番目に大きい旭川市。その中心部にある日本で最初の歩行者天国となった「旭川買物公園」を中心に旭川の老舗のお店やスイーツ店などを散策しながら、まちづくりや地域活性化を学ぶ。	旭川中心部「平和通り買物公園」をクイズ形式で散策しながら学びます。 ※先に4号車(午後入替)	地元食材弁当	92	バスで移動しながら郊外にある旭川や北海道の銘菓店などをめぐります。 ※先に5号車(午後入替)
アートホテル	本部待機	引率者3名、T/c 1名				4	



Copyright © Agri-tech Co.,Ltd All Rights Reserved

有限会社 アグリテック